

令和2年度第1回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和2年6月5日(木) 午後3時00分

開催場所 仙北市役所角館庁舎 西側庁舎2階 第3会議室

出席者

(構成員)

仙北市長	門脇光浩
仙北市教育委員会教育長	熊谷徹
仙北市教育委員会教育長職務代理者	安部哲男
仙北市教育委員会委員	坂本佐穂
仙北市教育委員会委員	橋本勲
仙北市教育委員会委員	細川伸也

(市長部局)

仙北市副市長	倉橋典夫
総務部長	大山肇浩
総務課長	藤村幸子
総務課主事	小林佳織

(教育委員会)

教育部長	佐藤義一
教育次長	三浦政喜
教育次長兼教育総務課長	朝水勝巳

案 件

(1) 新型コロナウイルス感染症対策の中での学校教育のあり方について

大山総務部長 ただいまから、令和2年度第1回仙北市総合教育会議を開催いたします。

はじめに、会議の主催者であります、門脇市長からごあいさつをお願いいたします。

門脇市長 本当にお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今少し話をしていたら、少し間があいた仙北市総合教育会議の開催だったなど反省をしております。学校の様々な対応を協議したそのあとに、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大があって、その感染拡大に対する様々な対策を続けているということ、教育委員会の皆さまにも心から感謝と敬意を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

今まさに6月定例議会が開会中でありまして、教育長も教育行政報告で多くの活動やご発言に関して、議会を通じて市民の皆さまにメッセージを発しております。その中でいくつか大変重要な着眼点がありましたので、今日このような形になったというふうにご理解いただいて結構です。私も同じ考え方でありまして、新型コロナウイルス感染症対策をしていく中で、こののちの日本のかたち、世界のかたちが大きく変容していくだろうという推測をしなければいけない現実があるというふうに感じております。特に、これまで政策として行ってきたいくつかの対応が大きく様変わりをする必要があるのではないかと。私の考えでは4つの領域があって、1つは観光産業のあり方、1つは農業のあり方、1つは医療のあり方、もう1つは教育のあり方であります。全部をお話する場面ではありませんので、教育のあり方についてお話ししようと思っておりますけれども、まさにこの点について、昨日の教育行政報告で教育長がお話をされて

いるということでもあります。それは、こののちの学校と家庭、子どもたちのコミュニケーションをどのように濃密にとっていくのか、その仕組みをどのようにつくっていくのかという示唆に富んだ指摘でありました。新型コロナウイルス感染症対策本部をほぼ毎週開催しておりますけれども、この新型コロナウイルス感染症対策本部で議論になったいくつかのことがありまして、それは休校のあり方や、休校の間に子どもたちにどのような教育を提供することが可能なのかというような議論がいくつかあったわけでありまして、その5月の学校が再開した時に、新型コロナウイルス感染症対策本部で、様々な方々から子どもたちの日常生活を見ていて感じたことのご意見があったということでもあります。その場面で私の方から、色々なところで話題になっているオンラインのあり方というものをしっかりと私たちは検証しなければいけないと。しかし、その時点では、果たしてオンラインによる意識の共有、コミュニケーションのあり方、リモート学習、これが本当に仙北市内の子どもたちと学校現場で密接な連携が取れているのかどうか、実態がわからないというお話をさせていただきました。そうしたところすぐに教育長、教育部長が行動に移されて、ICT関連の実態、環境を調査していただきました。1週間ほどかかったでしょうか。皆さま方からご協力をいただいて、約1,500人の家族の方々から回答があったというふうに聞いております。その中で、約1割の子どもたち、家庭の方々はその環境が整っていなかったということが判明したということでもあります。今後、私たちとしては、家庭、学校、子どもたち、この関係を濃密に維持していくためには、やはりオンラインというものは必要ではないかという考え方を持っていて、教育長も昨日の答弁では踏み込んだご発言をされております。例えば、この調査で約10%、人数で言うと150人程度でありますけれども、小中学生のインターネット環境が整っていないという結果になっています。そのほか、家族と一緒になければい

インターネットを見ることができないであったり、フィルタリング対策がなされていない機器を使っていたり、また、データ使用量により料金が変わるといった重要性がある等の課題がありました。しかし、タブレット等の貸与や通信料の助成などで、小中学生全家庭とのオンラインを推進したいと大変心強いご発言がありました。市長部局では、このご発言をしっかりと受け止めて、今後様々な事業を導入、もしくは単独であっても、次の第2波、第3波で学校がどのような状況になるかという推測がつかない状況であって、一刻も早くこの対策、教育長のご判断を支えなければいけないという思いであります。今日はこの点について委員の皆さま方から、どのようなお考えを持っていらっしゃるのか、ぜひ直接お聞きしたいということでこの場面を設定させていただいたということが大きな目標です。したがって、今日の意見交換では、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴う、休校中の子どもと家庭の学校との関係をどのようなかたちで支えていくのかというお話、また、これを機会に今後様々な経済支援対策や感染予防対策を講じていきますけれども、そこに各委員の皆さま方の着眼点で、こういう対策を講じるべきだと、オンラインのあり方にこだわらない、そういう提案をいただけるのであれば、お話をお聞きしたいということで、その提案についての予算獲得も教育委員会と一緒にやって行っていきたいというような思いを持っております。どうか、こののち時間は限られておりますけれども、たくさんのご発言をいただければありがたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。以上です。

大山総務部長 次に、熊谷教育長からごあいさつをお願いいたします。

熊谷教育長 今日のご苦勞様でございます。今日のお昼で一般質問の通告締切だったんですけれども、8人のうちの5人の方からご質問をいただきました。その中でお2人の方から、今市長が仰い

ましたオンライン化の質問がございました。今まさにオンライン化の問題がクローズアップされているなという思いでございます。先進国の中では、日本が一番小学校英語とオンライン化が遅れているそうです。ハード面をまずしっかり整えると同時にソフト面、どうしたらそれをうまく活用できるか、先進の示教になれるか、私たちに課せられたこれからの大きな課題ではないかと思えます。委員の皆さまからはいろんな面からご指導いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

大山総務部長 ありがとうございます。それでは、協議案件に入ります。本日の案件は、「新型コロナウイルス感染症対策の中での学校教育のあり方について」でございます。ここからの進行は、市長の方からお願いします。

門脇市長 はい。子どもたちが休校中の間に色々な家庭の方々から様々なお話を伺ったり、教育関係の方々からお話を聞いたりしたんですけれども、環境さえ整っていれば様々な提案ができたんだ、という大変残念なお話も聞いて、早く休校が解除になって何をするのが一番大切なんだというのをお聞きしたい、そういう思いでございました。おそらく皆さま方もいろんな思いをお持ちだと思いますので、お話を伺いたいと思えますけれども、安部教育長職務代理者の方からお願いします。

安部教育長職務代理者 日本でもこれだけの経験したことのない難しい社会で、効率とか便利さとかそういうものが常に成功してきた世の中だったわけですけれども、市長さんがお話されたような全ての面で、日本、世界のかたちも様変わりしなければいけないということに迫られていると感じております。よく報道等で新しい生活スタイルということで、その生活スタイルの様式について、具体的なスタイルは提示されていますけれども、私が思うに

は、なぜそうなのか、その考えの基盤となるものは、ただ新型コロナウイルス感染症対策というより、もっと根源的なところで今こそもう一回立ち返る、逆に言えば良い機会を与えてもらったというふうに私は感じております。新型コロナウイルス感染症のせいだと一概には言えないのですけれども、子どもの教育の話なのですけれども、私個人にとっても、道を歩いていても散歩していて人もいないし、わざわざ声を掛けて話をするような機会が新型コロナウイルス感染症には関係なく、最近は少なくなっているなど感じます。そういう人と人が交わるような社会が薄れてきているなどということを強く感じまして、こういう機会に教育はもちろんのことですが、市全体としてそういうことも必要なのではないかというふうに思ったところではあります。

市長さんが、観光、農業、医療、教育の4分野できめ細かい具体的な対策を考えてくださるということで、大変ありがたいし敬意を表するんですが、私が思ったのは、オンラインとかICT関係の環境がまだ十分に整っていないということで、一番思ったのは、教育を受ける子どもたちに経済格差を感じさせないようにする必要があるのではないかということです。家庭の負担をできるだけ補助していただいて、学習するにあたって、そういう家庭の経済環境による格差が起きないようにということをお願いしたいと思いました。それからもう1つは、休校等した場合の1つの対策として、オンライン授業等になるかとは思いますが、私は古い方の考えですので、やっぱり教育というのは、ICTで物は覚えることはできるけれども、先生と子どもとの触れ合いというものがあって、生活を一緒にして子どもが成長していくものだという思いが非常に強いわけで、ICT関係の環境を整えつつもそれをどういうふうにカバーしていくのかというのは、オンライン環境があるから勉強は心配ないということではなくて、子どもの成長のためには、教師との触れ合い、子ども同士の触れ合いというものが非常に大事に

なってくると思います。難しいことだとは思いますが、今後見落とせない大事な部分ではないかと思います。今市長さんのお話を聞いて思ったことは以上です。

門脇市長

ありがとうございます。橋本教育委員お願いします。

橋本教育委員

ちょっと視点がずれているかもしれませんが考えてきたこととお話します。第1に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がなくてこのまま学校活動を継続できることを願っています。臨時休校による授業時間数の確保について、仙北市では夏休みに7日間臨時の登校日を設けるということで余裕を持った授業ができるということでしたので、大変良かったというふうに思っております。夏休み中の登校ということで、暑さ対策が必要だと思っていましたけれども、幸い昨年度、生保内小学校を除いて各小中学校にエアコンの設置がなされておりますので、それを適切に利用することによって、暑さについての影響は最小限に抑えることができると思います。エアコンの設置がされていない生保内小学校については、できるだけ支障のないかたちで進めていただきたいと思います。それから学校では、感染予防対策ということで、消毒液等色々必要になってくると思います。国の方でも支援を考えているようでしたが、スピード感を持って進めるということであれば、市の方でもそれなりの対応をして支援をしていただきたいと思います。先ほど市長のあいさつの中でお話があったことですが、将来的に災害等で学校での授業が受けることができなくなる、学校が閉鎖される場合に対応するためには、情報の通信環境というものを整備しておく必要があると思います。秋田県内でも小中学生にタブレットの端末を貸与して進めていこうという自治体も出てきているようですので、進めていただきたいと思います。安部教育長職務代理者の方からお話があったように、環境を整える上で、できるだけ保護者の負担が少ないようなかたち

で、協力をいただいで進めていっていただきたいと思います。もう1つですけれども、先生方が、新型コロナウイルス感染症対策ということで残業が増えてくるのではないかと心配しております。教育長さんによく連携を取っていただいで、必要な事務ではあるかと思いますが、軽減できる部分については先生方の負担を軽くするようなことも考えていただければと思います。以上です。

門脇市長 ありがとうございます。坂本教育委員からお願いします。

坂本教育委員 2つのことをお話させていただきたいと思います。

1つ目ですが、休校の措置をとったということに関してですが、実は私は2月末から3月の時に、仙北市はまだ感染者もいなく、この卒業や入学の学年末の時期に休校してなんの意味があるんだろうと正直思いました。子どもたちが感染する確率が低いとその頃はまだ言われていましたので、自分自身も知識がなかったと思いますけれども、休校したことに対しては首をかしげる立場だったんですが、今思うとあの時休校措置をとったおかげで、この地域の感染が広まらなかったんだなということを強く思っております。それに加えて、様々なイベント等の中止等の英断も良い結果になったと思います。ただ、やはり卒業式に関しては、保護者の参列はかろうじてできたという状況でしたけれども、この卒業、入学を迎えた子どもたちにこのことをずっと忘れないで教訓にさせていただきたいなと思っております。

2つ目に、オンラインの学習に関してなんですけれども、私は自分が英会話教室をやっておりますけれども、全国組織の英会話教室でマニュアルが一応ありまして、オンラインで授業をするという研修も受けました。実際に私はそれを使用しなかったんですけれども、全国ではやはり首都圏とか大阪の方の先生たちは、ずっとオンラインでレッスンをされているようです。

秋田市内でも何件かオンラインでレッスンしたという先生の話を聞きましたけれども、やはり大変だったと。特に小さい子は親がついていなければいけない、自分でタブレットを操作することもできないなどありましたし、60分のレッスンなんです、4割できるかどうかというような内容を話していた先生もいたようです。私の英会話教室と学校の授業とは全く違うスタイルになるかとは思いますが、やはりオンラインで学習できる環境、そういう整備はしていかなければいけないと思いますし、先ほど委員の方たちが仰ったように、経済格差というものも考えなければいけないと思います。例えば、小中学生がオンライン学習をする家庭には、Wi-Fiの環境を整備するだとかタブレットを支給するだとか、そういった支援というのもできるのではないかという考えもあります。あと、低学年になるほど難しいと思います。中学生ですと、ある程度自分でスマホを持っている子もいるでしょうし、順応できると思うんですが、そういった学年による違いというものも出てくるのではないかと思います。それと、全国での情報なんですけれども、オンラインによる学校で授業を行ったことで、不登校の生徒が積極的に参加してきたという話を聞きました。これは今後通常スタイルでの授業をしていく上でも、例えば、不登校の生徒とオンラインで繋がることができるのではないかという考えにもなりましたので、今後このような事態は起こって欲しくはないんですけれども、何かあった時のために、普通の状態での教育とオンライン教育双方の利点を取り入れていくということも考えていかなければならないのではないかと思います。最後に夏休みの登校に関してなんですが、おそらく市長さんの方でも考えていると思うんですが、この7日間の給食はどうなるのかなということを心配しております。

門脇市長

通常どおり出ます。

坂本教育委員 わかりました。ありがとうございます。

門脇市長 ありがとうございます。細川教育委員お願いします。

細川教育委員 休校中で子どもたちも自宅にずっといたんですが、休校ということで、課題や宿題の量もかなり多かったです。子どもたちも一生懸命取り組んでおりました。次の第2波、第3波というニュースもテレビから流れてきているので、他の県でも行っている分散登校だとか、そういうものも必要になってくるのかなと考えました。ネット環境の部分に関しても、100%全部の家庭が繋がっているとも限らないので、どこの家庭でもタブレット等が使えるようにならなければ、このオンライン授業も難しいのではないかと思います。子どもたちに各1台ずつタブレットを支給したとしても、ウイルス対策等の設備にもかなり費用がかかると思いますので、オンライン授業というのを進めていく上でも様々なことを考えて、進めていただければと思っています。

門脇市長 ありがとうございます。熊谷教育長からお願いします。

熊谷教育長 今うちの方はプログラミング学習が非常に進んでいるんですけども、1つのチャンスとして、そういうのも行うと同時にオンライン教育の上手な活用の仕方を何とか開発したいという思いです。今のところはALTの先生が集まって、算数の授業や理科の実験をどのように行うと授業が成り立つかとか、色々なことが話題に出ております。それから、台湾と姉妹校締結していますので、ぜひこれを機会にオンライン等活用すれば、より交流も深まるし子どもたちの気持ちも上がっていくと思います。皆さんのお力をお借りして、ハード面の充実と同時に最大のピンチをチャンスにするイメージで、仙北市の教育をまた1つグレードアップできたらなと思っています。

門脇市長

ありがとうございます。ちょうどいい機会ですので、熊谷教育長もお話されましたけれども、仙北市の国際交流推進室に着任している国際交流員の黄敏さんが、実はずっと、姉妹校締結している姉妹校同士でリモート会議、もしくは様々なディスカッションの場面をつくりたいとお話していましたので、どうか教育委員会の皆さま、その思いで黄敏さんのサポートをよろしくお願いします。

倉橋副市長からもご意見をお願いします。

倉橋副市長

この前国際交流推進室の交付金事業で、業者さんに委託する事業があってそのプロポーザル選定委員会がありました。2つ事業があり、10者と9者の応募がありました。ほとんど仙台、東京の業者さんで、選定委員会は全部リモートで、オンラインのテレビ会議システムで19者行いました。おそらくこれからは、新型コロナウイルス感染症が終息したとしても、東京の人がわざわざこっちまで来てプレゼンするようなことはなくなるような気がします。それで用が足りるようになってきています。あるいは営業の人でもわざわざ遠くに行く必要がなくなってきたらと思います。テレワークというのもどんどん進んでいるんですけども、それが当たり前の世の中になってきた場合、当然学校教育の現場も変わってくるのではないかと思います。これは新型コロナウイルス感染症によって引き起こされたことなんですけれども、新型コロナウイルス感染症が蔓延していなくても、日常的にそういう時代になってきている、ならざるを得ないと思っていますので、仙北市も今就職氷河期の採用を募集していて、問い合わせがあるんですけども、この面接もオンラインで行いたいと思っています。来てもらうというのはもうできないと思っていますので、今度おそらく普通の採用試験も、わざわざ集めて面接するというのもなくなってくるのではないかと思います。それに合った面接のあり方を市と

してもつくっていかねばと思っています。

学校の方ですけれども、最近新聞で秋田市、男鹿市あたりが子どもさん全員にタブレットを配置するというような構想、国の文科省の補助事業「GIGAスクール構想」ですけれども、ちょっとこれは乱暴な気はしています。ソフト面でどの程度まで熟した内容を打ち出しているのか、ハード面はお金さえ出せばどこでもできるんですけれども、先ほど皆さんからも色々お話があったように、それを上手く活用していくための下地がなければ、小学校から中学校までいろんな生徒さんがいる中で、全員にタブレットを用意したからといってすぐ活用できるかということ、どうなのかなという思いはあります。市長からも最初話がありましたけれども、ただ何らかのオンライン化は必要になってきていると思って、オンライン授業までいきなり行うのは中々ハードルが高いと思うんですけれども、最初学校と家庭を結ぶオンラインシステムができないものかというのが、市長と私が考えた最初の教育委員会へのお願いでした。それで先ほど端末がない世帯には、市として端末を約束することはやぶさかでないと考えています。あるいは通信料をサポートするのも検討したいということをお話しています。そこからスタートできないのかなということをお話していますので、いきなりゴールでなくて、少しずつ進めていくロードマップができればというのが今の思いです。それが来年の4月から進めていただければなと思っていますところ。

門脇市長

ありがとうございます。

せっかくの機会ですので、大山総務部長からご発言があればお願いします。

大山総務部長

今Wi-Fi環境をつくるというのは意外と簡単なんです。借りてきて置いて料金を払うというだけです。ソフトバンクな

んかは携帯と一緒にだとある程度安くなる制度もあります。やはり今副市長が言ったとおり、それをどう使っていけばいいのかというのが一番重要なのかなと思います。環境づくりはそんなに難しくはないです。

門脇市長 佐藤教育部長、お願いします。

佐藤教育部長 先ほどから話に出ておりますオンライン学習の件ですけれども、大きい構想はGIGAスクール構想という、最初令和5年までに構築予定の事業でした。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、一次補正、二次補正が今年度から国の方で示されています。副市長が仰ったとおり、GIGAスクール構想というのは非常に大きい事業なものですから、経費の問題もありますが、やはり環境がどうなっているかわからなければ進められないということで、アンケート調査を実施したところです。結果は、市内11校の小中学生の合計で1,527人中、アンケートにご回答いただいた方が1,428人、93.5%という非常に关心度の高い回答率になっております。このような状況を踏まえると、教育委員会としてもこれは急がなければならないということで今検討しているところです。まずはモデル校をつくって、学校と家庭との通信が正常に行えるかどうかの実証実験から進めまして、できれば来年の4月から稼働するようなスキームで、腹案を練っているところです。このあと、北浦教育文化研究所の先生方と各学校との連携も必要ですので、そのあたり事務局として深く関与して、できるだけ早い機会に学校と生徒、児童の安心安全を見守るといような観点から、まず進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

門脇市長 三浦教育次長から何かないでしょうか。

三浦教育次長　　今回の新型コロナウイルス感染症騒動で、全国的に国としてもICT環境を整備することに拍車がかかって、学校側にしてみれば非常にありがたいことだと思います。ただ、配置したからすぐに結果を求められると、先生方の負担が今まで以上に増していくということですので、配備したものを学校で色々試しながら、有効な使い方を探る時間を十分に確保させていただければと思います。

門脇市長　　朝水次長はいかがでしょう。

朝水教育次長　　今回のGIGAスクール構想について、どちらかというところでも急いでいるというか、先ほど副市長も仰ったように危険という感じがします。着地点がはっきりと示されないまま、今手を挙げないと乗り遅れるというような言い方で、とりあえず意思表示はしていますが、ただ本当にそれでいいのかというのは、我々もまだよく見えていないというのが正直なところです。先ほど話にありましたがWi-Fi環境というのは簡単にできるんですけれども、高速で繋げて繋ぎ放題という範囲は、市内でも全域には広がっておらず一部の範囲です。それを離れると今の携帯で使っている4Gの電波になり、だいたい安い方のコースであれば7GBくらいになります。そうすれば、動画を1日4時間も見てると1日から2日で切れてしまいます。やはりまだまだ光ファイバーや光通信が入って使い放題にならないと、動画でのやり取りというのはかなり厳しいのかなと思います。ただ、今まで仙北市は、学校の教育PC導入制度を毎年コツコツと各学校で行ってきまして、今年度当初予算で角小と角中の学校の中のWi-Fi環境が整う予定で進めてきましたので、これで全校学校の中のWi-Fiは整備されます。あとは各家庭との環境になると思いますが、まだまだ課題は多い状況です。

門脇市長 藤村総務課長からお願いします。

藤村総務課長 総務課からは、オンラインということで個人情報の保護という観点からそのやり方について、十分確認しながら進めていかなければと思います。各家庭でWi-Fi環境を使用している方も、パスワードを設定するなど情報は守られていると思いますが、子どもさんが家庭で使う場合にあたっても注意していかなければと思います。

坂本教育委員 すみません。すごく今さらなんですが、GIGAスクール構想について教えていただいてもよろしいでしょうか。

佐藤教育部長 はい。簡単に言いますと、1人1台のタブレットを配備し、通信環境を整えて、双方向で授業ができるシステムを構築することがGIGAスクール構想です。現状、双方向というのはまず不可能に近いし、新聞やテレビで配信されているのは本当にモデル的であり、全国で5%、10%にも満たない状況の中の僅かな部分です。

安部教育長職務代理者 皆さんのお話を伺いながら思ったことは、佐藤教育部長からお話がありましたけれども、オンライン学習がどこまで双方向性を確保できるかということで、ICT環境での学習が、与えられた情報を先生から教えてもらって覚えるという一方的な学習方法であれば、世界の発展の教育に逆行することになるので、どうやって双方向性を確保するかということが非常に大事だし、そこが、教育委員会、教育現場の皆さんに与えられた大きな課題であって、こういう時代であるだけに、このICT環境というのは、都会であろうと田舎であろうと今は全く格差がない状況です。秋田県の教育で良いのは、きめ細かい教育、1人1人の子どもの実態を見て成長を育む教育、それが過疎であるだけに有効に活用できていることだと思うんです。そういう

意味では、都会の学校を上回る優れた長所になっていくのではないかと思います。過疎であることは、何ら引け目に感じる必要はないと思っていますけれども、ただ、今困っているからオンラインで学習するとか昔と同じなので、発展性がないのではないかなと感じたところです。

門脇市長

ありがとうございます。とても良い話になりました。要するに、安部教育長職務代理者がお話されたのは、昔の教育は一方通行で受けるだけ発するだけという状況で、それをICT環境でもやってしまったら、莫大な経費をかけていて今最先端と言われているこの時代に、なんの教育の発展もないのではないかというご指摘でありました。やはり基本は、双方向で情報を共有するということがとても大きなキーワードです。先ほど佐藤教育部長がお話になったGIGAスクール構想というのは、たしかに秋田市とかでは今導入することになったんですけれども、私たちもGIGAスクール構想に手は挙げてはいるんですけれども、それで授業を進めていこうという気は実はあまりないんです。教育のお話ですので、できるだけ早い時期に自分たちの思うような、教育委員会の方々の思うような教育を実践していくことを考えると、補助事業に乗る必要はなくて、むしろこのタイミングで私たちの思い描く教育を実現していくということに、努力した方がよいのではないかと思います。

安部教育長職務代理者

先ほど倉橋副市長さんが言ったように、学校もそうですが家庭自体もそういう環境になれば、自然に入っていけるようになると思うので、そういう方面での援助も必要なのではないかと思っています。

門脇市長

これもまさにその通りで、この間大館市の福原市長とお話した時には、通信料の一部助成は必ず行いますと仰っていました。ただ、これが中々難しいところで、いろんなキャリアの電

話の通信会社の商品に係る割安感が大きくなっている状況で、私たちはどこまで支援できるんだらうという線引きが難しいということでした。でもそれを行うということで、やはりこういうスピード感だなと感じました。ぜひ佐藤教育部長には、タイムスケジュールのようなお話をいただきましたが、来年4月の新年度に向けて、モデル的な取り組みをしっかりと、教育委員会の方々と具体的な話を進めて欲しいと思います。それに対して私たちも予算の確保に取り組みたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

この案件に関しては、あまりご異論がなく、重要なことも安部教育長職務代理者にお話していただきました。熊谷教育長に最後に締めていただければと思います。

熊谷教育長

はい。市長部局のお力をお借りしながら、スピード感を持って、検討、推進していきたいと思いますので、どうか皆さんのお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

門脇市長

次に、その他ですけれども、組織再編についてです。この件について、倉橋副市長から説明をお願いします。

倉橋副市長

皆さんに資料をお渡ししてはいますけれども、5月28日に議会議員全員協議会で議員の皆さんにお渡しして説明した資料になっております。組織再編と角館庁舎完成後の配置図です。角館庁舎の工事が順調に進んでおまして、11月中にはほぼ完成する見込みです。12月中に引っ越しをして新しい角館庁舎に入るのは、今の予定では、12月21日から業務を開始する予定となっております。最終的に12月19日、20日が土日ですので、ここに最後の引っ越し作業が入る予定となっております。新しい角館庁舎が開庁後の組織再編について検討しておりました。それについて先般議会の方にお示ししました。予定では、9月定例議会に主要の条例改正を予定しております。

また、教育委員会につきましては、西木庁舎に入る予定になっておりますけれども、現在西木庁舎に入っている福祉事務所、建設部、農林部、農業委員会が出たあとに、西木庁舎の改修工事を行いますので、教育委員会が西木庁舎に入るのは、令和3年4月からになる予定です。それを踏まえた組織再編案になっております。

まず1つ目は、現在田沢湖、角館、西木「地域センター」の名称を「市民センター」に改称します。角館の市民センターには、新しい角館庁舎の総合案内をする係を設ける予定です。また、西木の市民センターには、福祉事務所、農林部、建設部、農業委員会がなくなりますので、それらの事務をワンストップでできる体制を整えたいということで、若干職員を増やしても、農林、建設、福祉関係の窓口業務を担当していただくこととしております。

2つ目は、観光商工部を観光文化スポーツ部に改称して、観光課、文化財課、スポーツ振興課の3課・3所属機関とするということでございます。教育委員会に大きな影響を及ぼす改編ですけれども、秋田県が平成25年から観光文化スポーツ部に組織を変えておりますけれども、それにならって、最初秋田市も観光文化スポーツ部、男鹿市、大館市もそのような体制で行っておりまして、仙北市としても観光、文化、スポーツが一体となった取り組みをしたいということでございます。ただし、文化財課なんですけれども、文化財保護法の改正、あるいは地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正が、平成31年4月から改正案が施行されております。それによりまして、文化財関係を市長部局で担当することができるようになっております。ただ、実際の埋蔵文化財等の事務について、全て市長部局でできるのかどうか、現在の教育委員会で行っている業務全てを市長部局に移すことが妥当なのかどうかということは、教育委員会の方とこれから中身を詰めてから判断したいと思っています。

3つ目は、農林部を農林商工部に改称して、3課1所属機関とするということで、農林部と商工課を一緒にし、農林、商工産業を一体ということで農林商工部にするという事です。

4つ目は、教育委員会事務局を教育総務課、学校教育課、生涯学習課の3課にするということでございます。北浦教育文化研究所は今までどおりの取り扱いになる予定です。これで西木庁舎に入る予定となっております。以前も教育総務課と学校教育課が分かれておりましたけれども、元に戻す形にして、やはり学校教育専門に担当していただきたいという案でございます。

あとで出てきますけれども、中央公民館として、西木庁舎に中央公民館を配置してございまして、先般の議会全員協議会の際に、中央公民館のあり方について議論がされておりましたので、このあと教育委員会の方で各公民館の所管する団体等の説明会を開催されるということで、そうした実際に活動されている皆様のご意見を教育委員会の方でお伺いして、意見集約を図って中央公民館のあり方を詰めていただきたいと思っております。

今の組織再編案の組織図としては、別添資料①のとおりです。それから配置図ですけれども、別添資料②角館庁舎配置図と別添資料③西木庁舎の配置図の平面図が添付されていると思いますけれども、角館庁舎1階の平面図がこのようになってございまして、市民福祉部が1階、角館市民センターを最初に市民の皆さんが訪れる場所に配置しまして、ここに総合案内の窓口を設けることにしております。入口は、風除室1、2、3で、西側の風除室1が正面玄関になっております。次に角館庁舎2階の平面図です。上から、農業委員会事務局、農林商工部、観光文化スポーツ部、建設部がそれぞれ2階に入っております。エレベーターも付きます。次に別添資料③の西木庁舎平面図、教育委員会が入るところですけれども、教育委員会は2階の左側に、教育長室、北浦教育文化研究所、教育総務課、学校教育

課、生涯学習課が入ります。それから、右下の今の開発センターの1階の部分に中央公民館が入る予定になっています。そのほか、西木庁舎には外郭団体が入りまして、(一社)田沢湖・角館観光協会西木支部、社会福祉法人はなさき仙北が入ります。今の農林部が入っているところに、仙北市西木土地改良区と仙北東森林組合西木支所が入ります。西木市民センターは1階の玄関正面に入るようになっております。これは、来年の1月から3月中に改修工事を行って、教育委員会に入っていくことになっています。

以上のような組織再編と新角館庁舎完成後の配置図でございます。以上です。

門脇市長

ありがとうございました。ただいまの説明で、組織再編、庁舎の各配置等について少しイメージができたと思います。

ここで休憩に入ります。

(休 憩)

門脇市長

会議を再開します。自由意見交換をさせていただいたんですけども、いろんな視点で皆さま方からお話がありました。今まで守ってきたものをしっかり守っていくということを基本に置きながら、さらに発展させていくんだと、新しい社会に対応していくんだというような皆さんのお気持ちがわかりました。心配なこともいくつかありましたので、それをお話できるように、市民の方々にしっかりと説明できるように、このあともどうかご議論よろしくお願い申し上げます。

他には何かないでしょうか。

佐藤教育部長

よろしいでしょうか。

門脇市長

はい。お願いします。

佐藤教育部長 組織再編の中央公民館構想のお話が出たついでで申し訳ないんですけども、公民館条例の中に、中川が7月からコミュニティセンターの方に移るということで、議案を上程させていただきました。そのほかに、3公民館と中川を含めて7つの地区公民館、全部で10箇所あります。実際機能していない地区公民館ですので、このあり方についても市長部局と話を詰めて、中央公民館構想を進めていく必要があると思います。次の教育委員会定例会でも総合教育会議の場面でも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

門脇市長 はい。ありがとうございます。
他に皆さんから何かありませんか。

倉橋副市長 周知されていると思いますけれども、今回の新型コロナウイルス感染症関連の経済支援対策で、市内小中学校の給食費について、4月から夏休み前までの分を無料にするということで、9月以降の給食費の徴収で調整していただくということにしております。夏休み中の7日間の登校日の分についても無料にします。

そのほかに国の方で、子育て世帯応援事業として、児童手当受給世帯に対し、子ども1人あたり1万円を支給するというところで、これにあわせて仙北市では独自に、18歳未満（高校3年生以下）の子どものいる子育て世帯に対し、対象となる子ども1人あたり2万円を応援事業として支援したいと思います。これは、この間の定例議会で提案がとありましたので、これから事務手続きを進めたいと思います。

門脇市長 倉橋副市長にまとめてお話してもらいましたが、この話は、第2次の経済支援対策になります。

今その他の部分で組織再編の話をさせてもらいましたが、組

織再編に限らず、何か気になることや心配なことがこの場面であればお話しください。

坂本教育委員　　すみません。平福記念美術館は、文化財課の所属機関なので市長部局にということでしょうか。

門脇市長　　基本的にはそうなります。

坂本教育委員　　新潮社記念文学館はどうなるのでしょうか。

熊谷教育長　　生涯学習課の管轄ですので、教育委員会になります。

坂本教育委員　　わかりました。

倉橋副市長　　今はその予定ですが、これから中身を精査してまだ検討の余地があるものと考えています。

門脇市長　　ちなみに6月に入ってから、平福記念美術館、樺細工伝承館、新潮社記念文学館、田沢湖クニマス未来館、瀧分校等、市内外問わず、今入館料が無料になっていますので、ぜひ皆さんご活用いただければと思います。

それでは、他にないようですので、進行の方を大山総務部長へお返しします。

大山総務部長　　長時間にわたり、様々なご意見をいただきありがとうございました。これを持ちまして、令和2年度第1回仙北市総合教育会議を終了いたします。お疲れさまでした。

(午後4時20分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員